

2025年1月19日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒241番（KH 姉）

『主の御稜威と』

聖書⇒ヨハネの黙示録 22章 7、12~13、20節（MM 姉）

『見よ、わたしはすぐに来る。この書物の預言の言葉を守る者は、幸いである。』

見よ、わたしはすぐに来る。わたしは、報いを携えて来て、それぞれの行いに応じて報いる。
わたしはアルファであり、オメガである。最初の者にして、最後の者。初めであり、終わりである。

以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、わたしはすぐに来る。」

アーメン、主イエスよ、来てください。』

礼拝讃美歌⇒189番（旧 292番）

『主はいつ来たりたもうや』

聖書⇒詩編 63編 2~7節（SK 兄）

『神よ、あなたはわたしの神。わたしはあなたを捜し求め／
わたしの魂はあなたを渴き求めます。
あなたを待って、わたしのからだは／
乾ききった大地のように衰え／
水のない地のように渴き果てています。
今、わたしは聖所であなたを仰ぎ望み／
あなたの力と栄えを見ています。
あなたの慈しみは命にもまさる恵み。
わたしの唇はあなたをほめたたえます。
命のある限り、あなたをたたえ／
手を高く上げ、御名によって祈ります。
わたしの魂は満ち足りました／

乳と髓のもてなしを受けたように。
わたしの唇は喜びの歌をうたい／
わたしの口は賛美の声をあげます。
床に就くときにも御名を唱え／
あなたへの祈りを口ずさんで夜を過ごします。』

< 祈 >

礼拝讃美歌⇒386 番

『主に任せよ』

(礼拝後に人見兄により解説された)

聖書⇒詩編 133 編 (ES 姉)

『【都に上る歌。ダビデの詩。】

見よ、兄弟が共に座っている。

なんという恵み、なんという喜び。

かぐわしい油が頭に注がれ、ひげに滴り／

衣の襟に垂れるアロンのひげに滴り

ヘルモンにおく露のように／

シオンの山々に滴り落ちる。

シオンで、主は布告された／

祝福と、とこしえの命を。』

< 祈 >

礼拝讃美歌⇒62 番 (旧 16 番) (KH 兄)

『イエスよいかばかり』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。

わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、
主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒155番(旧208番)

『神の小羊は』

《建徳》

聖書⇒ローマの信徒への手紙8章39節(HK兄)

『では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、**だれが**わたしたちに敵対できますか。わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。**だれが**神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。**だれが**わたしたちを罪に定めることができます。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです。**だれが**、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができます。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。「わたしたちは、あなたのために／一日中死にさらされ、／屠られる羊のように見られている」と書いてあるとおりです。しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。』

聖書⇒創世記3章4~10節(KH兄)

『蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。』

礼拝讃美歌⇒127番 (KH 兄)

『十字架の許ぞ』

《番外》

礼拝賛美歌 386 番について (NH 兄)

《建徳要旨》